



神のいつくしみの主日 (ヨハネ 20:19-31)

だれもが神のいつくしみの中で生きるように

復活節第2主日は聖ヨハネ・パウロ二世教皇の時に「神のいつくしみの主日」と呼ばれるようになりました。朗読ではイエスが弟子たちに現れ、その場にいなかったトマスにも、さらに現れます。この物語をよく読むと、私たちに対する神のいつくしみも読み取ることができるように思います。

今日、ミサのあとに女性部の総会があります。それが終わると、私は休暇を取らせていただきます。大阪に行きます。栄実さんを訪ねてきます。甲子園球場も訪ねてきます。どちらも懐かしいです。楽しい訪問になればいいなあと思っています。ということで、田平教会では平日は土曜日の朝だけ、ミサがあります。それまではお休みです。ミサは休みますが、呼吸は止めないでください。私を大阪から呼び戻さないように。

連休後半は、3日に教区評議会総会です。最終的に参加を決断しました。4日午後は平戸地区の転勤する神父様のお見送りとお迎えです。5日はクルシリヨ参加者との感謝のミサと参加者をねぎらう食事会です。戻ってきてからもいろいろ忙しくなりそうです。5日は長崎に留まりますので、6日(月)もミサをお休みさせてください。

一つだけ心配事があります。すでに危篤の状態にある人がいると報告を受けています。もちろん連休を越してくれることを願っています。それでももしも、連休にかかった場合は、お隣の先輩にお願いをしております。念のためお願いはしておりますが、連休を越してくれることを願っています。

さて復活したイエスは、ユダヤ人を恐れて自分たちのいる家の戸に鍵をかけてじっとしていました。家に鍵をかけるとは、もはやイエスが戻ってくることもないと考えていた証拠です。弟子たちは、そこまで恐れに支配されていたのですが、イエスの復活は彼らにも届きました。

この復活したイエスとの出会いに、立ち会えなかった弟子がいました。トマスは、「大事な場面に立ち会えなかった人」を象徴的に表しています。卒業式に風邪を引いて参加できなかった卒業生とか、受験の日にインフルエンザにかかって一年を棒に振った受験生とか、そうした人々を象徴的に表しているでしょう。

イエスの配慮は、どこまで届いたのでしょうか。少なくとも、トマスまでは届きました。つまり、その場にいるはずだったのに何かの事情で立ち会えなかった人たちまで、イエスの復活は及んでいくのです。その神のいつくしみがどのようにして、私たちにまで及んでくるのでしょうか。

今日の福音朗読は、結びにこのように書かれています。

「このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、

信じてイエスの名により命を受けるためである。」(20・30-31)

弟子たちは最初に神のいつくしみにあずかりました。そこに居ようと思えば居ることのできたトマスにも、神のいつくしみは届きました。しかし物理的にその場に立ち会えない人々のはるかに多いのです。結びの言葉はそのはるかに多い人々のためにも、神のいつくしみは届くと言っているのではないのでしょうか。

今年の聖週間に備えて、私は聖週間のミサの説教をプリントにした冊子を用意しました。50部用意したのですが、50部では足りなかったようです。予想外でした。「余る」と見込んでいたのです。このプリントは、聖週間、特に聖なる三日間にすべてあずかるのは難しい、そういう人の補いのために用意したものでした。ひょっとしたら、すべてあずかった上に、持ち帰った人もいるかも知れません。

今日は、神のいつくしみの主日です。神のいつくしみは、ミサの典礼に行こうと思えば行くことのできた人にも届くわけですが、物理的に、参加がまったく不可能な人にも届くはずですがそのためにはもちろん協力者が必要です。たとえば今回用意した冊子を、私があと20部増刷する。ここから神のいつくしみを届けるリレーを始めることができます。

その上で、皆さんの中の誰かが、「あの人は物理的に聖週間のミサの典礼に参加できない人だから、私が届けに行こう」そういう人が現れれば、田平教会でも神のいつくしみに触れる人、復活したイエスとあの弟子たちが集まった家に集えない現代の人々にも、神のいつくしみは届くのだと、証明できるのではないのでしょうか。

そうならばいいなあと考えて、案内所に今回の冊子をあらためて20部用意しましたので、皆さんは、神のいつくしみがあなたにも届きましたよと証しする証人になっていただければなあと思います。

私たちが、物理的にどう考えてもイエスの復活の喜びに触れることのできない人まで復活の喜びを届けるなら、今日の神のいつくしみの主日は皆さんのおかげでさらに実り豊かな日となります。鍵を握っているのは皆さんです。私はきっかけは作って上げますが、女性部の総会が終わったら消える人ですから当てになりません。そう思って、「神のいつくしみを私が届けることのできるのは誰だろうか？」このように思い巡らす一日といたしましょう。